

# 腕のよい教師に



人間環境大学 講師

真木 利貢 氏

教育随想

私の教員生活の原点となった豊富な小学校時代の著書「板書する子どもたち」(昭和四十九年出版)に、執筆した文章がある。

「授業では、考への足場を持ち疑問を強く出してくる子どもの動きに刺激されて、教室が一つの課題に集中する。子どもたちの眼は輝き、追究に勢いがついていく。」

子どもたちは、授業で分かる喜びを得て満足し、共に人間として成長している。教師には、この子どもの力を伸ばしていく腕が必要である。よい授業の実践には、必ず法則がある。ぶつかっていく実践力・指導力と共に教師のきびしさが資質として求められている。

卒業して大企業に就職した教え子からの手紙に、職場の新聞が同封してあった。自分の文章として、恩師



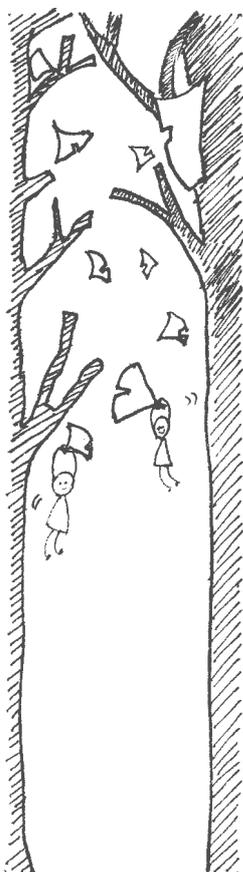
平成19年9月1日

## 9月号

発行・編集  
岡崎市教育委員会

### 今月の紙面

教育随想	1
人間環境大学講師 真木 利貢氏	
この人に聞く	2
日本赤十字社 愛知県支部指導講師 石川 貢氏	
羅針盤	2
保健指導員 河合 美保	
ふれあい	3
福岡中 各務 圭	
特集	4
充実する初任者研修	
お知らせ	6
フォト・ヒストリー	8
市内初のプレザー制服 (平成4年)	
この本を	8



のことを書いたという。

「まわりがよく見える眼を持つてくれたら、先生はうれしい。それはあなたが歩む人生の水先案内人となっていくでしょう。」と。

学校内の問題行動ははじめ生徒指導における先生方の苦労は多い。

いろんな指導場面で、教師間の共通理解が力を発揮する。学校がその機能を十分に果たすためにも、逃げないで事実から学びたい。子どもが見える資質が大切である。

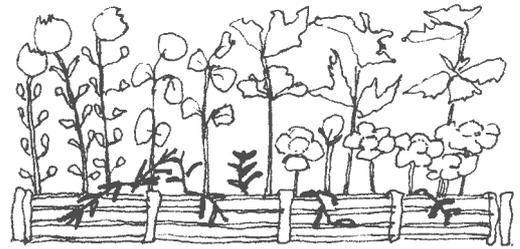
「子どもが見える」ことは、教師がよく動いており、全体が見えていくことである。あいさつ等の生活態度や廊下や教室等のゴミの意味が見えている。子どもの動きからその学校の今の集団の人間力が、判断できてしまう。

最後に、健康づくりには、特に気をつかいたい。自分の命を大切にすると共に、すなおに感動し、よいものに満足できる人間であってほしい。

(まき としつぐ)

ふるさとシリーズ

## この人に聞く



心はいつも子供と共に

「みどりの寺子屋」主宰

日本赤十字社

愛知県支部指導講師

石川 貢 氏

「できる者が、できることを、できるときに、自分の責任においてやる。これが赤十字の奉仕の考え方でず。」

石川さんは、昭和五十三年から、日本赤十字社愛知県支部の青少年赤十字指導者となられた。そして、勤務校や市内の代表児童生徒によるリーダー研修会などにおいて、青少年の育成に尽力された。退職後も、学区の児童を対象とした「みどりの寺子屋」をはじめとして、県内外の研修会や保護者対象の講習会などで青少年育成や後進指導者の育成に力を注

がれている。

「長年、教師を務めた自分が、地域のために何ができるかを考え、六年前から寺子屋を始めました。地域のお年寄りに協力を依頼して、魚や草花のこと、太鼓などを教えています。ほそほそとしたことですが、子供たちと付き合っていくかと思っています。」

子供たちとの活動をまとめた「みどりの寺子屋新聞」を手にしながら話された。この新聞は、毎月一回発行され、すでに六十号を数える。

「今は二十五人ぐらいの子供が来ています。子供たちには、自分のことは自分でやろうと約束をさせます。五歳の子も倉庫から一生懸命に太鼓を運んできます。危険なとき以外、手を出しません。お母さんも遠くで見守っています。この子が、寺子屋へ入ってからは、自分の茶碗を片付けるようになったそうです。」



自立というのは、一般的に、自分で何かができるようになることと言われています。しかし、わたしは、その子の心の中に、お母さん以外のたくさんの方がすみつくことだと思っています。」

その後も、寺子屋の子供たちの話が続く。

「吃音障害があり、不登校になった三年生の子が入りました。わたしは、活動の後、いつもこの子にその日の感想を言わせました。初めは泣いて何も言えませんでした。やっと『よかった』という一言が言えるようになりました。一か月たつと、いろいろなことを言うようになりました。そして、一年たつたら、どもりながらも『太鼓を打たせてください』と、自分の言葉で言えたのです。そのときは、感動しました。」

この子は、中学生になった現在も、寺子屋を手伝いに来るそうだ。

「わたしの頭の中には、いつも子供がいます。心は子供と共にありたいと思っています。赤十字の精神は、理屈ではなく、自分がどう動いていくかです。それが生きることにつながっていくわけです。」

熱く語られた石川さんの姿に、子供たちへの深い愛情と生涯現役を貫こうとする固い信念を感じた。

氏名 石川 貢 氏  
生年月日 昭和五年十一月十七日  
住所 美合町入込六十四一十

## 生と向き合う

保健指導員 河合 美保



相田みつをの詩から、自分と他とのかかわりや自分が存在していることとの価値について考える。そこから、命の大切さに迫っていくA中学校、三年五組の学級活動の授業を見た。

パワーポイントの画面で、「根はみえねんだなあ」の「みえねん」の部分空欄にして提示し、根の存在価値に気付かせていく場面である。生徒は、「大切」「重要」「大事」「足」「すべての軸」「丈夫」「大黒柱」と、思い思いの考えを述べていく。B先生は、丁寧に生徒の言葉で板書する。この学級では、「何を言っても大丈夫」「どんな意見も認めてもらえる」という、温かな雰囲気を感じられた。次に、「自分の番 いのちのバトン」の詩において、「いのち」の部分に何があてはまるかを考えていく。「たくさんの愛」「まほろし」「宝物」「いのち」「思い」「人生」「愛」「運

## 生き方追究学習

— 修学旅行編 —

福岡中 各務 圭

五十か所近くもリストアップされた修学旅行での訪問先。老舗の和菓子屋や伝統産業の職人、政治家、福祉関係の団体など、その訪問先は多岐に渡っている。

本校の総合的な学習「あじさいタイム」は、人々の働く姿に触れることで、自分の生き方に関するテーマを設定し、追究していくことを活動の中心としている。三年生の修学旅行では、自分の設定したテーマを追究していける場所を訪ねることになっていた。A子は写真専門学校を訪問先を選んでいった。

A子は自分の思いをぶつけるあまり、部活動では孤立し、学級でも、仲のよい友達と些細なことからトラブルを起こすことがあった。そして、休み時間になると保健室へ足を運ぶことが次第に多くなっていた。

そんなA子も、総合的な学習には意欲的で、これまでの活動から「夢をかなえるために」というテーマを設定し、追究している。こうして、「A子の夢って何なの。」

「きれいな風景の写真をいっぱい撮りたい。」

「写真家になりたいってことかな。」

うなずくA子。写真家になる夢を持ち、夢をかなえるために努力している人たちがいる場所を求めてA子は一人で、写真専門学校を訪問することにした。

GPSによる位置検索システムの利用や最寄りの駅で担当の教師が出迎える体制づくりなど、子供の安全は、十分に確保していた。



安全面はもちろんであるが、A子が一人で、すべてを投げ出さずに最後までやり遂げることができ、気がかりであった。さらに、先方の都合で、次の予定であるデイズニールランドの集合時間から一時間ほど遅れることになる。

「一人で遠いところまで行くことになるけど大丈夫」と尋ねると、不安げな表情を浮かべながらも、「どうしても、ここへ行きたいので、これでいいです」という返事が返ってきました。自分の目的を達成しようとす

るA子の強い意志が感じられた。

訪問当日、A子に、「がんばっておいで」と声をかけると、彼女は黙ってうなずき、ホテルの玄関を出ていった。

午後四時、集合場所であるデイズニールランドの入場ゲート前には研修を終えた生徒が続々と集まってきた。それから遅れること一時間。予定の時間通り、A子が笑顔いっぱい入場ゲートへ帰ってきた。

一つの大仕事を成し遂げた達成感からであろう、わたしたちに話す訪問先での話が止まらない。

しばらくして待ち合わせの時間に笑顔で出迎えに来たグループの友達を見つけると、手を振りながら、ゲートの奥へと走っていった。



命「ハート」など、感性あふれる発言が続く。そんな中、「今日は自殺（のこと）やるんじゃない」と初めから興奮気味のC男の姿があった。

このころ、子供たちのいじめによる自殺が各地で起こり、大きな社会問題となっていた。こうした状況を、C男は敏感に察知していたのだろう。B先生は、「さっきから自殺、自殺と言っているけれど、バトンなんだからね。ゴールではないの。命のバトンを次へ渡さなければいけない」と、正面から向き合って話された。この言葉を、どの生徒も真剣に受け止めることができた。

本時の授業を振り返る場面では、生徒たちは、「自分の前に二人、またその前にも二人と二人の命があり、ずっとずっとつながっていて自分があることに気付いた」と発表している。命のつながりに気付き、生きていくことの価値を認識することができたのである。生徒の心に訴える授業であった。

次時は、学校保健委員会の機会に、作家である佐藤律子氏の話聴き、命について考えを深めていく。このように学級活動と行事とをタイアップさせ、ねらいを焦点化した取組は十分な成果が得られるものと考ええる。

# 充実する初任者研修



子供に寄り添い、  
信頼される教師をめざして

▲4月 おかざき世界子ども美術博物館訪問

時代の要請に合わせ、教員には様々な知見と教養が求められている。初任者研修もそれらの声を反映して、その内容と方法の改善・充実が図られている。

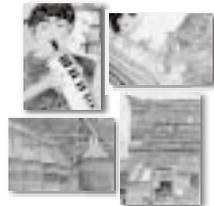
現在、初任者研修は、年間に校内研修を百五十時間以上、校外研修を約二十五日行っている。校内研修では、拠点校指導教員等が配置され、校内のコーディネーター役の指導教員と共に、学級経営や教科指導など、教師としての指導性と専門性を高める研修を行う。その研修を手助けするものとして、岡崎市教育委員会は、『初任者ガイドブック』を作成した。学級経営や授業づくりのポイントが示されており、初任者が少しでもスムーズに教壇に立つことができるように、今年度からそのガイドブックを初任者全員に配布している。

また、平成十五年一月より岡崎市は中核市となり、それまで県主催で行ってきた校外研修を市独自で行うようになった。教育研究所を中心に、ハートピア岡崎やおかざき世界子ども美術博物館など、市内の教育関連施設も活用して初任者研修を実施している。初任者にとっては岡崎の地を実感的に学ぶ機会となっている。さらに、夏休みには、市内のごみ収集体験や近隣の保育園での実習など、社会奉仕体験や職場体験も行う。学校以外の価値ある体験を通して、教員としての基礎的素養を高めるのである。初任者研修にかけられる時間は決して少なくはない。だからこそ、この研修で学んだことを目の前の子供に十分に生かしてほしい。これからの岡崎の教育を担う教師として、今後も研鑽を重ね、成長することを期待したい。

## 初任者ガイドブック

「初任者ガイドブック」は、教師としての基本的な構えや学級づくり・授業技術の基本が記載されている。「本書は長年にわたり積み重ねてきた岡崎の諸先輩方の知恵と技の結晶」と巻頭言に示されている。新規採用教員だけでなく、経験ある教員においても日ごろの教育活動を振り返ることができる価値あるガイドブックである。

### 子どもの瞳に輝きを 初任者ガイドブック



岡崎市教育委員会

四月、子供たちとどのように向き合えばいいのか、黒板はどのように使うのか、教科の教材研究は……。様々なことが頭に浮かび、不安でいっぱいでした。そんなとき、初任者研修で『初任者ガイドブック』をいただきました。学級経営や授業の進め方など、事前の心構えとして読むことができ、本当に助かっています。このガイドブックのおかげで、自分の悩みを解決するためのヒントを見つけることができ、笑顔で子供とかわりながら過ごすことができています。

平成十九年度採用

城南小 長坂 友香

初任者研修（校外研修）の一年

月	研修領域	研修内容
3月	新任教師の集い	（初任者宿泊研修）
4月	基礎的素養	【開講式】 ・本市の教育方針，心構え 生徒指導 ・いじめ・問題行動の理解
5月	総合的な学習 基礎的素養 学級経営 基礎的素養	・市内教育関連施設巡回 ・授業の進め方 ・学級経営の進め方 ・特別支援教育のあり方
6月	生徒指導 教科指導	・危機管理のあり方 ・実践研究発表と研究協議 ・水泳実技，水難救助法
7月	教科指導	・教科・領域の基礎基本
8月	教科指導	・教科・領域基礎研修会参加 ・情報・視聴覚機器を用いた授業づくり
	基礎的素養	・社会奉仕活動（ごみ収集体験） ・職場体験（保育園実習）
	生徒指導 特別活動	・不登校生徒の早期対応 ・宿泊研修（3日間） ・野外活動・環境教育
9月	教科指導	・研究実践発表と研究協議
10月	道徳 教科指導	・道徳教育の進め方 ・初任者研究授業，授業分析 ・教科学習の進め方
11月	基礎的素養	・個を生かす教育
1月	生徒指導	・教育相談の実際と進め方
2月	基礎的素養	【閉講式】 ・体験発表 （1年を振り返って）

教員として意識を高める



▲4月 ハートピア岡崎訪問



▲4月 開講式



▲拠点校指導員の先生との研修会



▲5月 学級経営の勉強会

学級経営・教科指導を学ぶ



▲10月 道徳教育の進め方（六名小学校・H18）



▲8月 教科指導研修（音楽科）

体験を通して社会とかかわる



▲8月 保育園実習（六ツ美北保育園・H18）



▲8月 ごみ収集体験



▲4月 市内教育関連施設巡回（消防署）

「初任者研修」で学んだこと

私が教員として、二年目を無事に迎えることができたのは、充実した初任者研修のおかげです。初任者研修は、教師としての道筋に明かりを灯し、自信を失いかけていた私の心の支えになりました。

特に校外研修として参観したA中学校のB先生の授業では、あまりのすばらしさに衝撃を受けました。授業開始のあいさつから、私はB先生の授業に引き込まれていきました。生徒が英語を通して心からコミュニケーションを楽しんでいる姿や、教師が生徒と同じ目線で考え、共に授業を進めていく姿は、自分が理想としていた英語の授業でした。

当時の私に足りなかったことを、この授業で気付くことができました。そして現在、学習内容のすべてを説明するのではなく、生徒の考える時間を保障して授業を行うように心がけています。また、生徒の目線に立ち、生徒と共に問題を考え、授業を楽しむことができますように努めました。それは、初任者研修をきちんと受けてきた成果であると感謝しています。今後も様々な研修には積極的に参加し、それを現場で生かせるよう、自分自身を高めていきたいと思えます。



平成十八年度採用  
六ツ美中 鹿田 晋



● 教育最新情報

○ 岡崎からの発信

八月三日(金)、今年も、岡崎観光夏祭りが伝馬通で盛大に行われた。その中で、注目を集めたのが「よさこい in おかざき」である。小中学校、一般、合わせて千人を超える参加者が軽快な曲に合わせて華々しく踊った。

この踊りに使われた曲「一天濤快」よいとこさ岡崎」は、岡崎竜城ライオンズクラブから岡崎市に贈呈されたものである。岡崎の人たちが、誰でも自由に踊れるようにとの願いを込められて作られた。昨年十一月、シビックセンターで、作曲して下さった京都今村組を招いて、お披露目ライブも催されている。多くの市



民がかけつけ、一体となってライブを体感した。

一天濤快

よいとこさ岡崎

作詞・作曲 今村翔吾  
今村克彦  
振り付け 今村龍太

粋な男も舞姫も  
老いも若きも岡崎へ  
天下太平、炎の祈りは  
寒風を焦がす滝山の鬼火よ  
重き荷を背負い、長き道をゆく  
六所社の宿命(さだめ)の時よ  
千年をも一時雨、  
ただあなたを待ちこがれ  
浄瑠璃姫の別れ

おお矢作橋の恋よ  
ヨイトコサ 三河の魂よ  
ヨイトコサ

忘れずここにあるの  
ヨイトコサ 岡崎山桜  
ヨイトコサ 咲き誇れ

良いとこさ 咲き誇れ  
忠義の華もいつか色褪せると  
知りながら咲かせ続ける酒井華  
「無」の二文字を掲げて榊原

惚れた者の為、風に還るもの  
我が身に朱を纏い

井伊の魂(みたま) ただ強く  
夜空の下蜻蛉舞  
おお意気地よ本多屋

ヨイトコサ

踊ればそれでいい

ヨイトコサ

歌い続けられたい

ヨイトコサ 岡崎の舞人よ

良いとこさ 舞い踊れ

岡崎市民の踊りへの取組の輪が広がっている。各小中学校にDVDも配布され、運動会などでの取組も始まった。岡崎発信のこの踊りがさらに発展していくことを願っている。岡崎の新たな文化のスタートである。



小学校運動会での取り組み

● 中学生姉妹・友好・国際都市交流事業

中学生の海外友好都市交流事業として、各都市から使節団を受け入れている。

七月二日から九日間、ニューポートビーチ市の使節団を迎えた。岡崎城などの施設を見学したり、市内八つの小中学校で学校生活を体験し交流を深めたりした。

また、八月三日から四日間、呼和浩特市から使節団を迎えた。岡崎夏祭りを見学したり、北野小学校、美川中学校を訪問したりした。

さらに、八月二十四日から四日間、マレーシアからの使節団を迎え、額田中学校を中心に交流活動が行われた。

いずれの子どもたちも市内の中学生の家庭にホームステイをし、楽しい交流を行った。

十月には、ウツデバラ市の使節団来訪が予定されている。こうした交流を通じて、岡崎市の子どもたちが、ますます世界に目を向けていくことを期待している。



ニューポートビーチ使節団市長表敬訪問



呼和浩特使節団学校訪問(北野小学校)

●表 彰

◆第四十四回「全国中学生海の絵画コンクール」

銀賞 南中 年 渋谷 健

◆全日本少年(弓道)錬成大会

優秀賞 額田中 弓道部

技能優秀賞

額田中三年 石原達彦

額田中三年 鈴木和典

額田中三年 小野恭平

額田中二年 石谷遼一

◆サントリーカップ第二十七回全日本バレーボール小学生大会(愛知県大会)

第一位 矢作南小学校

第二位 竜美丘小学校A

第三位 六ツ美南部小学校

◆第二十九回東海小学生バレーボール大会男子

第一位 矢作南小学校

◆第四十二回交通安全子ども自転車愛知県大会

第五位 竜美丘小A

◆第一回愛知県女子剣道段別選手権大会(中学初段の部)

三位 矢作北中一年 漆谷綾華

◆通信陸上愛知県大会

女子走り幅跳び

八位 岩津中三年 中嶋望樹

◆第五十回中部日本吹奏楽コンクール

愛知県大会(大編成の部)

優秀賞 竜海中学校

優秀賞 岩津中学校

◆第二十九回愛知県中学生相撲大会(個人戦)

優勝 南中三年 鈴木敦裕

◆第六回愛知県中学生空手道選手権大会(団体)

形 準優勝

組手 第三位

南中二年 濱口奨吾

南中二年 浅井大悟

南中一年 年代海里

◆第二十一回愛知県小学生相撲選手権大会(小学校四年の部)

優勝 根石小 加古卓也

◆第三回「育て！プリントコミュニケーション」コンクール

審査員特別賞

梅園小教諭 柵木 弓

北野小教諭 林 茂生



●平成19年度岡崎市小学校体育大会の記録

Table with 5 columns: 種目, 性, 優勝, 第2位, 第3位. Rows include Softball, Volleyball, Basketball, Soccer, and Swimming.

●第60回岡崎市中学校市長杯総合体育大会の記録

Table with 5 columns: 種目, 性, 優勝, 第2位, 第3位. Rows include Track and Field, Basketball, Volleyball, Soft Tennis, Table Tennis, Physical Education, Judo, Handball, Softball, Archery, Soccer, and Swimming.

●第45回岡崎市小学校水泳大会

【南ブロック】三島小プール

Table with 4 columns: 種目, 氏名, 学校, 記録. Rows list various swimming events and participants.

【北ブロック】井田小プール

Table with 4 columns: 種目, 氏名, 学校, 記録. Rows list various swimming events and participants.

●第60回岡崎市中学校市長杯総合体育大会総合成績

Table with 7 columns: 男子総合, 女子総合, 男女総合, 1位, 2位, 3位, 4位, 5位, 6位.

●第60回岡崎市中学校市長杯総合体育大会個人成績

Table with 6 columns: 種目, 男子, 氏名, 校名, 女子, 氏名, 校名. Rows list individual achievements in Archery, Soft Tennis, Table Tennis, and Judo.

※記録欄の「新」は、新記録の意味

・カ  
ツ  
ト  
六ツ美中  
原田美和子

## 市内初のブレザー制服 (平成4年)

写真提供：六ツ美北中学校



平成四年四月、六ツ美中学校から分離し、市内十八番目の中学校として六ツ美北中学校が誕生。新しさゆえ、制服のない一年生は私服で入学した。まさに、ゼロからのスタートであった。

「六ツ美北中学校の新しい伝統を創ろう」の合言葉のもと、職員や生徒、保護者が一丸となり、どんな制服にするかの話し合いを重ねた。それまで中学校の制服といえば、学生服やセーラー服が定番であったが、ブレザー制服に決定した。決め手は、生徒会による全校アンケート調査。生徒や保護者の意見を取り入れたことは、「私たちの学校」という意識が高まり、新しい学校づくりを進めるうえで、意義のある一歩となった。



## 岡崎の教育



「親孝行したい時には親はなし」とは、平均寿命が延びて高齢社会になる前の話のようだ。今は、お年寄りがとても元気だ。

「老」とは、知恵や徳のある人のことを言う。老中、家老、長老という言葉がある。経験を豊富に積んだお年寄りから学び、敬老の日を祝いたい。

新学期に行う防災訓練。東海地震の可能性が示唆される中、新潟で大地震が起こった。災害に対する心構えは、どこにいても常に持ち続けていたい。校舎の耐震工事が進んでいるが、我々の心も耐震性を高める必要がある。全国の被災地から学ぶことも、重要な「防災教育」である。

## シオ スア

赤とんぼが飛び交う校庭に、子供たちが帰ってきた。夏休み中に伸びきった雑草。懸命に抜く子供たちの顔に汗が光る。「先生、ほら見て。こんなにとったよ」と、自慢げに雑草の山を指さす。「がんばったね」

今学期も、子供たちと共に新たな気持ちでがんばっていきましょう。

崇高な理想を抱いて教師となつた一年目。初任者研修は、現場に立った若い教師が基本的な資質や技量を学び、教員としての自覚を高める場である。子供にとっては、初任者でもベテランでも、同じ先生である。だからこそ、研修の場を大切に、教師としての自信を培いたい。



- \* 鮭が9割 齋藤茂太 ¥1,200  
ビジネス社
- \* わが人生の歌がたり 五木寛之 ¥1,500  
角川書店
- \* 先生が明日からできること 金子晴恵 ¥1,000  
P H P 研究所
- \* 江戸の遺伝子 徳川恒孝 ¥1,500  
P H P 研究所

- \* 鈍感力 渡辺淳一 ¥1,100  
集英社

現代はストレス社会である。現代人はいろいろなせかせかして、そのストレスを周囲に撒き散らしたり、反対に、自分だけで抱え込んだりしている。著者が言うように些細なことで揺るがない鈍感力を持たなければ、精神の安定や健康は得られず、遅く生きられない。

しかし、周囲に対し無神経過ぎるのも困る。無神経さではなく、何事にも動じない逞しい心と体を持つことである。

著者は、睡眠力も鈍感力と言う。些細なことを気にせずよく眠り、相手の気持ちを察する心の豊かさを大切にしつつ、明るくおおらかに生きたいものである。